



歯科医師会が小中学生に歯ブラシ寄贈

2月2日、伊万里・有田地区歯科医師会が、市立学校の卒業生と小学校新入生へ歯ブラシの贈呈を行いました。

これは、卒業や入学で環境が変わっても、子どもたちの口の健康を守ってもらおうと9年前から続けられているもので、今回は、卒業生・入学生向けに、合わせて1430本が贈られました。

同会の福田浩司会長は「若い頃からの歯磨きの習慣は、高齢になっても歯の喪失を減らし、健康寿命の延伸にもつながります。歯磨きを習慣づけてもらえればうれしい」と話しました。



↑深浦弘信市長に目録を渡す同会の福田会長（左から2人目）

伊万里地区防災フェス

2月15日、伊万里コミュニティセンターで、防災フェスが開催されました。

これは、子どもから大人まで幅広い世代の人たちが集い、体験を通して、防災について一緒に考えることで、地域の防災意識向上につなげようと、伊万里地区まちづくり運営協議会と子ども会連合会が共催で開いたもので、約400人の来場者などでにぎわいました。

会場は、災害時に活躍する日本赤十字社の車両などを展示する『展示コーナー』や、水没時の車両ドア解放疑似体験など、災害時に役に立つさまざまな体験を行うことができる『体験コーナー』、伊万里地区の青年部などが出店した『グルメコーナー』が設けられ、大きな盛り上がりを見せました。



↑自衛隊の制服を試着しました

防災学習・災害活動車の交付式

2月26日、伊万里消防署で防災学習・災害活動車の交付式が行われました。

これは、消防団を中核とした地域の総合的な防災力の充実強化を目的に、公益財団法人日本消防協会から交付されたものです。

車両は、10人乗りで、水消火器やAED、人工呼吸練習用人形のほか、照明設備やポータブル発電機、煙体験ハウスなどを備えています。

平常時は、地域や事業所での防災学習・指導に、災害時は、緊急車両として、消火活動や人員・資機材の搬送に活用されます。



↑日本消防協会から交付された防災学習・災害活動車

郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22・1262

遺跡余話 『奇跡の鏡!』

前回まで、市内には弥生時代の遺跡が少ないという話をしていたが、遺跡の中には、特別な遺物が出土した例があります。

上伊万里駅の近くにある午辰遺跡（大坪町）は、伊万里湾からやや奥まった場所であり、平地が少なく『海を生産基盤とした集落であった』と推定されていて、そこには、甕棺墓が12基、箱式石棺墓が13基確認されています。

石棺墓の多くは、副葬品があり、このことから、石棺墓

は有力者の墓であったと思われるが、特にその1基から、約2千年前に中国（漢時代）から運ばれた、青銅製鏡（直径19・7センチ）が出土しています。鏡の背面には『長宜子孫』という、子孫繁栄を願うおめでたい銘文があります。

遺跡が発掘されるまでは、畑や水田として利用されていたため、石棺は、耕運機などによって大きく壊されていて、鏡も、あと15センチで粉々になるところでした。奇跡的に残った貴重な資料です。



↑鏡が出土した石棺の状況



↑鏡の出土状況（背面）